

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171200233		
法人名	有限会社ベターライフ建築事務所		
事業所名	グループホームいっぽ		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字箕原3067-2		
自己評価作成日	令和4年2月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和6年3月6日	外部評価確定日	令和6年4月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然に囲まれ、各居室の窓からも四季折々の風景が見られるなか、事業理念を念頭におき、家庭的な雰囲気大切に認知症のお年寄りに安心して生活していただいております。食事調理の音や匂いを、楽しんでいただくよう対面キッチンにし、季節の食材を使用し献立にも希望を取り入れ、提供させて頂いております。また、ご利用者様の健康状態も毎日、朝夕バイタルチェックし、近隣の医療機関と密に連携し、状態変化に早期対応できるよう心がけています。ご利用者、ご家族の希望であれば、看取り介護にも取り組んでおります。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>田園に囲まれた静かな環境の中に開所して21年の「いっぽ」がある。昔ながらの集落と周囲には多くの新興住宅が新築されている。事業所名「いっぽ」の由来はゆっくり進んで行くこと、新しい事に一步「いそがず」「さわがず」「ゆっくりと」を目標にしている。長く経験された施設長と60歳代の永年勤続の経験豊かな職員3名が在職され心強く安定したケアの中でゆっくり過ごされている。玄関には花が植えられ季節が感じられる。事業所は「こども110番」になっており登下校の際に子供の立ち寄りもある。施設内は木製で落ち着いた雰囲気がある。管理者は利用者、職員の話はよく聞く、意見を聞く、否定しない等を大事にされている。管理者はじめ職員は1日も早くコロナ禍の制限が解け以前のように運営が出来る事、地区の方が何時でも何でも相談出来る場所になる事を目標にしている。</p>
--

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員事務室に事業理念の全文、理念を基に、4箇条を作成し、毎朝朝礼で唱和するとともに日々介護の実践の場で生かすよう努力している。	理念の変更はないが見直しの計画がある。朝礼の際に唱和され振りかえる事が出来ている。玄関、キッチン、事務所にも掲示されており、何時でも見る事が出来理解されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、ごみ収集場の掃除を定期的に行っている。こども110番の家となっており、時々学校帰りの子供たちがトイレを利用したり、夏場は水分補給をする子供も居り交流出来ている。毎年、みやき町おやじの会の方より年越しそばを頂いている。	町内会に参加している。地域に3名の職員がおり、情報は得られている。これまでは区役にも出来る限り参加し地域の方からグループホームについて質問もあり、ホームのこともっと知ってもらいたいと話をする機会もあった。町内のおくんちや浮立の見学にも行っている。毎年年末には年越しソバの差し入れがあり利用者は楽しみにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の相談場所になればと考え、運営推進会議で、区長、民生委員さんに、認知症に対する理解を深める契機をつくっている。管理者がオレンジみやきのメンバーとして、認知症カフェや高齢者声掛け訓練、認知症サポーター養成講座等活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、地域包括支援センター、区長、民生委員、ご家族に参加頂いていっぽのサービス提供状況や課題など報告し、ご意見をいただいてサービスの向上に努めている。その際に民生委員より、委員に対し勉強会を行ってほしいと相談があり、グループホームについて勉強会を行った。	会議は2ヶ月に1回民生委員、地区の代表、家族の参加で行われている。民生委員よりグループホームや認知症について勉強会の要望がある。事業所からはいつも利用している公園へのベンチの設置や消火栓設置の願いをされ解決された。事業所に対する要望や助言については丁寧な回答がされており、欠席者には議事録を持参し意見等を聞いている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から相談し市町村との連携を図っている。また、地域包括支援センターと共にオレンジみやきの一員として活動している。みやき町社会福祉協議会には主催の講演会に参加したり、日常生活自立支援事業や成年後見制度の相談をし協力関係を築いている。	行政から研修の案内や情報を得られ必要に応じて参加されている。出前講座も利用されている。生活保護の方が3名入所されおり年2回福祉事務所から様子や聞き取りが行われている。地域包括支援センターへは空き情報、社協には後見人制度等それぞれに相談し意見交換され関係は繋がっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のための指針を作成し、3ヶ月に1回委員会を開催しており、その際禁止の対象となる具体的な行為を再確認し、拘束になり得る状態は無いか確認している。その他外部研修に参加したり、地域包括支援センターにも講義を依頼しケアに取り組んでいる。	3か月に1回委員会を実施し何が拘束になるか等事例を挙げ身体的な拘束ばかりでなく、言葉についても日頃からスピーチロックに気を付けられている。パタパタしない、ダメ等言わない等職員同志で気を付け合い工夫している。職員の気になる言葉遣いには管理者が指導されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、勉強会を開催したり虐待の防止に努めている。また、虐待の防止の為の指針を作成し、発見時の通報方法も事務所に掲示している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様で成年後見制度を利用されている方が居られる。今後必要だと思われる事例については、みやき町社会福祉協議会へ相談しており直ぐに活用できるような体制を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には退所時の事も含め十分な時間をかけて説明を行い、利用者様とご家族の自己決定を最大限に尊重し、理解、納得をしていただけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関のわかりやすい所にご意見箱を設けている。また、面会の際に何かないか伺うようにしている。 また、外部へ意見を表せる様に、契約の際に重要事項にて苦情申請場所を説明している。	玄関には意見箱、事業所のパンフレットが置かれている。家族とのコミュニケーションもよく利用者の様子は細かく報告され家族も安心になっている。面会や電話で聞き取りをされている。毎月「いっぽ新聞」を作成し、近況報告と利用者の日々の様子をイラスト入りの写真を家族に送付し安心され喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を開催し、各ご利用者の状況を把握、処遇面、業務改善、職員の意見を聞く機会を設けている他、普段より職員の話聴くように努めている。管理者は必要であれば代表者に報告している。	職員の入れ替わりは少ない。職員には60歳代の永年勤続の方や退職して再就職された方があり、利用者や職員も安定したケアが行われ安心される。ストレスは虐待やケアに関係するので気をつけている。職員は管理者に意見は出し易く、危険な事に気を付ける様に伝え、のびのび仕事ができるように配慮している。職員間のコミュニケーションもよく働きやすい事業所である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、処遇改善の給与への反映を始め、職員一人一人の長所を見だし、評価する事によってさらなる向上心をもって働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の勉強会等は実施している。外部研修は少しずつでは有るが、参加の機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、研修等の実行委員会に参加したり、オレンジみやきの一員としての活動で交流できている。また職員も少しずつではあるが外部研修にも参加したり、行事参加で関係施設の職員と交流出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り、ご利用者様に見学に来ていただき、十分な説明時間を設け、不安や望んでおられることを理解し不安を和らげ、入所して頂けるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入所申し込みに来られた際には、ご家族の状況、困っている事などを聞き、ご家族の不安が軽減できる様に努めている。ご家族とはいつでも気軽に相談できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、ご家族とは十分に話を聞く機会を設けて、その時必要な支援を見極め、必要なサービスに繋げられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様との関りを多く持ち、洗濯物を干したり、畳んだり、利用者様にもできることをやって頂き、ともに暮らしていく一員として意識して頂ける様に努力している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在、玄関での面会は実施しておりご家族様には、ご利用者様に安心感を与えられるような役割をになってもらっている。希望あれば外出も出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出の機会が少なかったが、希望があれば家族と外出してできる限り馴染みの方や場所との関係が途絶えないように努めている。	面会希望は多い。コロナ禍で面会制限はあるが感染対策し、何時でも面会出来るようにしている。居室での面会は出来てないが玄関で短時間である。その時に家族の意見が聞かれている。定期的に家族と外出、ドライブされる方もある。電話の取り次ぎも行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでのレクリエーションや体操、色々な機会を利用者間の交流をしていただくよう努力している。また、利用者様同士の関係は、職員が把握して趣味が合う利用者様同士で会話をしたりしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、ご家族から相談事があれば連絡して来られたりしており、相談や支援に努めている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションを図り、利用者様やご家族からの思いや、意向を聞き利用者様の思いを大切に出来る限り利用者様の望む生活が出来る様に努めている。	日々の生活の中で利用者の日頃見られない行動や表情、つぶやきを観察し記録に残し介護計画に活かされている。食べたいもの、行きたいところ等レクリエーションや風呂の時間に聞く事がありその思いに寄り添い出来る事から実行されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所時に生活歴やこれまでの生活について、利用者様、ご家族、担当のケアマネジャーに伺い把握に努めており、入居後も同様に話を聞き、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方については、一人一人に合った時間毎の声掛けをし、皆様がリビングに集まった際には日付の確認を欠かさず行っている。できる方は家事を一緒に行ったり、個別に実施している。そこで発見した事も記録や口頭で情報共有し状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様に心配な事、不安な事は無いかコミュニケーションの中から汲み取ったり、ご家族、主治医、職員などから意見やアイデアを聞き取ったりしている。また、職員からの情報や意見をまとめ介護計画を作成している。	申し送りノート、日々の様子や思いの記録や体力、残存機能等家族、医師の意見を参考に介護計画を作成している。6か月毎の更新であるが期間中に容態変化があった際にはその時点の利用者の思いに寄り添い計画を見直し、家族にも報告されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施についてのチェック表を作成し、毎日の記録も行い、口頭でも情報を共有し見直しにも活かされるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物や散歩やドライブは希望があれば対応しており、出来る限り要望に柔軟に対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の状況を見ながら、地域行事を見物しに行ったり、近所を散歩したりと地域の中で楽しく暮らせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の上野医院との医療連携を説明して、異常の早期発見・緊急時の対応など適切に行っている。また、専門の医療機関にも状況に応じて、ご家族の理解・協力を得て受診支援を行っている。	受診医療機関は利用者、家族の希望である。受診時は家族付添いであるが病院で利用者と家族、職員と待ち合わせされる事もある。協力医が近くにあり急患、夜間の対応が出来職員も安心である。医師からの報告は職員で共有し、家族にも説明されている。往診は週1回、歯科は訪問され口腔チェックも出来ている。皮膚科は必要に応じて往診出来る。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	全職員、利用者様の状況把握に努め、変化があれば看護師等に申し送って連携を図っている。また、看護師等より主治医へも連絡し速やかに適切な指示を受けるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報提供は、担当医やソーシャルワーカーと連携して、適切に実施している。また、入院先の担当医などより求めに応じて利用者の状況を報告し、早期の退院のため協力したり、各病院の地域連携室などとも交流し、円滑な関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様、ご家族の希望があれば、重度化した場合や終末期の対応は可能であり、入所契約時にも説明している。早い段階から、利用者様、ご家族にあり方をお話するようになっている。 また終末期、ご家族より訪問看護の希望があれば地域の訪問看護ステーションを利用できるようにしている。	入所時に重度化や終末期について説明し同意を得ている。看取りの経験はある。全員で勉強会を行い、取り組み体制は出来ている。訪問看護と契約のある方は相談され職員と共に利用者、家族にとって良い最期を迎えられる様に思いに添っている。エンゼルケアを行いお別れをされている。家族の泊まりも可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の健康状況が悪化した場合のマニュアルを整備し、速やかに適切な対応ができるよう努めている。特に、職員の応急処置について主治医の指示を得ながら適切に行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回は実施し、特に夜間の火災を想定した訓練を必ず年1回消防署の立ち入りを得て指導してもらうよう勤める。現在自然災害時における事業持続計画作成中である。	消防署立会いで年2回夜間想定訓練が利用者の参加で行われている。地区の参加はない。コロナ禍の前は地元消防団の訪問がされていた事もある。訓練後は注意点、改善点の説明があり、職員は消火器の設置場所や使い方を確認されている。傍には川があり気に掛けられている。	隣接する家もあり特に夜間は職員が1人の為、訓練時から地域住民の参加協力は必要と思われます。運営推進会議の際に課題として取り上げ、今後は地域住民の参加を期待したい。
S					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しい関係を構築した中でも、利用者様の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないように、会議で話し合いをもっている。	接遇の研修は実施していないが日頃のケアの中で利用者のプライバシーに気を付け、声の大きさや声のトーンにも注意し、その人に合った声掛けを行っている。生活の中で佐賀弁を使い利用者に解り易い言葉としている。重要書類や個人情報の管理、保管については職員も理解されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段から利用者様とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係が築けるよう努めている。利用者様の要望や希望から自己決定できるよう支援し、意思疎通が困難な利用者様には、表情や行動から思いを察し、希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の取り組みについて、大まかな1日の流れは決まっているが、基本となる生活習慣を守りながら、利用者様個々のペースを尊重した支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類や着用する洋服選びの手伝いをしていて、2か月に1回訪問理容にて髪をカットしてもらっている。女性の利用者様には誕生日や行事の際に、化粧やマニキュアを職員が手伝い、おしゃれをしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の際食べたい物を聞いて作ったり、片付けなどそれぞれの利用者様のできる事を協力して頂き、食事をともに楽しめるよう工夫している。また、それぞれの健康状況に合わせ、好きな食べ物を考慮した献立を考えて、食事を提供している。食事中飛沫防止のためアクリル板を使用したり、現在は職員と一緒に食事が出来ていない。	食事は事業所内で調理されている。職員と利用者で買い物も行われている。メニューは利用者の希望を取り入れ、職員が交代で調理されている。食べ易い形態にされ美味しいと完食される。職員は希望で利用者と一緒に同じ物を食べる職員もいる。職員は介助しながら見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養状況、水分量について、それぞれの状況に合わせて適切な栄養を提供して、記録に残す。それぞれの病歴や習慣に合わせて、塩分や盛り付けの量、刻み食、ミキサー食、トロミつけなど工夫して、十分な栄養の確保を目指している。また西九州大学の健康栄養学科の先生と生徒さんによる栄養調査を実施してもらい、結果を食事内容に取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	嚥下障害や口腔内清潔保持のため、口腔ケアを定期的実施している。必要な利用者には歯科の支援も頂き、口腔ケアを行っていただいている。食事前の体操も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、排泄の失敗が少なくなるように、プライバシーに配慮しながら早目の言葉かけを行い、トイレへ案内している。トイレへの移動が難しい利用者様には介助している。毎日の排尿、排便回数や量を記録し状態の変化に対応している。	排泄パターンを利用し声掛けし誘導されている。自立された方もあり、1人で行かれる方もある。動きで様子を知り声掛けをしている。ズボンの上げ下げ等出来ないところは職員が手伝っている。夜間はポータブルトイレ使用もある。排便の困難な方には乳製品等を使用し医師と相談され改善されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には、野菜を多く取り入れたり、水分補給に牛乳を提供したりしている。また、排便(周期や便の硬軟など)の状況に注意を払い、それぞれの利用者の食事量・水分量なども考慮している。さらに、便秘薬なども主治医と相談して適宜調整している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の予定や健康状態に合せ、入浴日は事業所で決めており、安全に清潔を維持していけるよう設備を利用して実施している。必ず職員が必要な人数配置をして、安全に入浴できるように実施している。また、拒否があれば、時間をおいたり、職員を交代したりし、気持ちよく入浴して頂けるようにしている。入浴できない方に対しても、清拭、手浴、足浴、ベット上での洗髪を実施し清潔保持に努めている。	週3回の入浴である。男性5名の利用者があり、入浴日を決められているが、体調や気分に合わせてられている。入浴を嫌がられる時は人を変え、時間をずらすなどしている。季節湯もある。ターミナルケアの方の洗髪は安全で楽に出来るように訪問看護の指導で用具を使用している。リフト浴も使用され安全に入浴出来ている。お風呂ではゆっくり話が出来、楽しい時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングと居室を自由に過ごせる環境にしており、個々に合わせて休息する時間を設けている。安眠確保のため、照明や室温、音への配慮も行い、リラックスできる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に病歴の正確な把握、薬事情報をファイリングし、全職員が把握できるようにしている。変更があった場合は、医療連携ノートに記載し共有し経過観察を行っている。異常等あれば、主治医に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団でのレクリエーションや体操だけでなく、個別で食器を拭いたり、洗濯物干し、畳み、新聞、広告を折りなど役割をもって頂いている。気分転換に散歩やドライブを行っている。時々食事の際にノンアルコールビールを飲んで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の感染状況を踏まえ、ご家族の協力も得て、馴染みの場所への外出の機会を作ったり、地域行事の見物、花見等、季節を感じて頂くために、季節ごとに美しい自然と触れ合う機会を作ったりしている。	年間行事はあるが天候や利用者の気分により変更される事もある。コロナ禍でも工夫し下車する事なくドライブに出かけられている。社長のいちご畑でいちご狩りが行われ楽しまれた。天気の良い日は散歩に出かけ、季節を感じてもらい気分転換や日光浴を楽しまれている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している利用者様はいないが、金銭を所持される事で安心される方には、ご家族了承の少額の金銭を持って頂くようにしている。また、一人一人の小遣い帳をつくり、厳密に用途を管理して、ご家族に定期的に報告し残高管理など実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への連絡を希望される利用者には随時実施している。グループホームとしては、月1回のいっぽ新聞をそれぞれの方の近況を加えて発行し、ご家族にお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間である(リビング、廊下、トイレ、浴室、台所など)は、清潔を保持し、外の光、空気も取り入れながらも常に温度・湿度など快適な状況を作るよう努めている。リビングには、オゾン発生器を設置し空間除菌や消臭を24時間行っている。また職員も大きな物音をたてないように配慮し、利用者様に落ち着いて過ごしていただけるようにしている。	リビングの中央に台所があり、囲むように居室や廊下がある。掃除は職員が行っている。利用者はソファでテレビを見たり自由に過ごされている。職員は台所から利用者の様子を観察しながら調理されている。美味しい匂いも感じられている。トイレは手書きで大きく表示されている。清潔で廊下は障害物も無く安全である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで寛げるようソファを置いており、テレビを視聴したり、思い思いに過ごせる場所に配慮している。気の合った利用者様同士の談笑やゆとりをもって過ごせる時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族の写真や昔の写真が置かれたり、好きな芸能人のポスターを張られている方もおられ、ご利用者様の使い慣れた家具、嗜好品が置かれ、居心地良く過ごせるようにしている。	居室入口には大きく名前が表示されている。馴染みの物の持ち込みは自由であるが多くの持ち込みはない。全員電動ベットを使用しテレビ、写真、アイドルのポスター、ぬいぐるみ等が飾ってあり利用者が安心して住みやすくなっている。居室内には大きなクローゼットが作り付けられており整理整頓され心地良い生活の場となっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や浴室など表札で解り易く示し、必要な場所に手すりなどを配置して安全な環境となるよう工夫している。また、危険な物は目につく所に置かないようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない